

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川陽平殿

報告日付：2014年4月4日

事業ID：2012055382

事業名：第21回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 長崎の開催

団体名：第21回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 長崎実行委員会

代表者名：白髭豊

TEL：095-811-5120

FAX：095-811-5121

事業完了日：2014年3月11日

事業費総額	30,855,130 円（事業の実施にあたり生じた費用の総額）
自己負担額	29,855,130 円
助成金額	1,000,000 円（事業実施のために使った助成金の総額）

事業内容

事業名：第21回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 長崎

開催日：2013年7月6日（土）・7日（日）

会場：長崎ブリックホール

実施内容：※（ ）内は発表人数

講演	9	(13)
（内訳）		
シンポジウム	7	(26)
セミナー（ランチョン）	5	(5)
ワークショップ	1	(1)
トークセッション	1	(2)
レクリエーション・リラクゼーション	4	
市民公開講座	1	(1)
小計	28	
一般演題	146	
（内訳）		
口演	51	
ポスターセッション	95	

事業目標の達成状況

目標の達成状況

大会参加者：有料参加者 4,671名（2日間の延べ人数）

無料参加者 約300名（市民公開講座）

※全国各地から2日間のべ約5,000名のご参加をいただき、盛会のうちに無事終了することができた。

事業成果

1) 大会アピールの発表

大会1日目にプレスリリースを行い、大会アピールの発表を行った。アピールは2013年7月7日の長崎新聞に掲載された。内容は以下のとおり。

1992年に設立された日本ホスピス・在宅ケア研究会は、終末期医療とケア、在宅サービスや医療の問題を、医療・介護・福祉従事者、市民、患者さんが対等な立場で話し合い、そして学ぶ場です。これまで、患者およびその家族を全人的に捉えてあらゆる問題に対応する「ホスピスマインド」を、緩和ケア病棟だけでなく、一般病棟や在宅まで浸透させるべく活動し、さらに、在宅ケアの支援を行ってきました。

長崎大会では、「そいでよかさ、長崎～あるがままに生きるための地域連携ネットワーク～」をテーマとして、療養場所の選択は自由であり、その際に患者さん・家族を支えるのが専門職種の役目であり、そのための連携が大切であることを訴えました。また、ホスピスマインド、いのちの授業、療養相談・退院支援、医療用麻薬の施設・在宅での使用、口腔ケア、患者さんからの聞き書き、認知症の市民公開講座等を行いました。長崎大会は、一人ひとりがその人らしく生きそして死んでいくために、専門職・市民が今後どうすべきかを示すため、下記アピールを発信します。

1. 療養場所決定の支援

病院—在宅—施設など療養場所の選択・希望は変わっていき、本人と家族で意向が異なることすらあります。医療・介護・福祉従事者は、すべての選択を患者さん・家族が納得できるように、意思決定、療養場所の決定の支援を多職種と市民の協働のもとで行なっていきます。

2. 看取り文化の再構築

医療・介護・福祉従事者など終末期の医療およびケアに携わる者は、死の教育ならびに終末期医療およびケアについての実践的な教育を受けるべきです。

さらに、市民、患者さんは、いのちの授業、看取り体験談など啓発活動を広く受け

入れ、病院で囲い込んでいた死やそこにいたる療養の過程を、日常生活のなかへ取り戻していくようにします。

3. 緩和ケアの普及

がん診療連携拠点病院のみならず、一般病院、在宅・施設で広く緩和ケアが実践されるように期待します。また、緩和医療およびケア（ホスピスプログラム）の非がん患者への適応拡大を期待します。

4. 居住系施設で看取りが出来る体制の構築

多死の時代を迎えるにあたり、自宅死の増加には限りがあります。特養・老健、その他の居住系施設で、最期の瞬間まで優しい手を差し伸べる看取りができるような施設職員の教育や、医療の参入を在宅療養の場合と同様にできる制度への改善を期待します。

以上

2013年7月6日

大会長 白髭 豊

2) 在宅医療や緩和ケアというテーマは、様々な講演会や研修会を行っても専門的な内容になりがちで、一般の方々にはとっつきにく面があるが、今大会では堅苦しい講演ばかりではなく、演奏や演劇を用いた講演を行ったり、お手玉やマッサージ・ヒーリング等の体験会も行った。あたたかな雰囲気、ざっくばらんに在宅医療や緩和ケアについて取り組んでいる様々な現場のみなさんの声を届けることができた。

3) 市民への啓発：2日間市民にとって参考となる情報を周知したり、「ペコロスの母に会いに行く」の岡野雄一さんを招いての市民公開講座を開催した。結果的に、今まで在宅ケアを知らなかった市民へ情報発信を行うことができた。

成功の要因

- 様々な職種の方が実行委員会に参加して頂いた。（最終人数 46 名）
（医師・歯科医師・薬剤師・看護師・ケアマネジャー・患者会代表者他）
- 定期的な実行委員会の開催の他に、テーマ別に小グループを設けグループごとの会議を行った。また、日本ホスピス・在宅ケア研究会本部から数回実行委員会に参加していただき、今まで実施した大会の経験を元にした助言を得ることができた。

※実行委員会は計 7 回開催。

※小グループは以下の通り。

ネットワーク、地域の在宅・小児の在宅、レクリエーション・リラクゼーション、

看取り・スピリチュアルケア、緩和ケア、ボランティア・ピアサポーター、ホスピス、トークセッション

- 色々な方法を使って広報を行った。
 - ホームページを大会の前年8月より立ち上げた。
 - フェイスブックの利用（平成25年3月26日に立ち上げ）。
 - チラシ、ポスター作成など。
 - 新聞、雑誌、放送局等へアプローチ・市政記者室に投げ込み。

事業成果物

- 第21回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 長崎 抄録（1,300冊）
- 参加証（2,400枚） ネームカードケース（2,500枚）